

令和5年度 熊本県青少年育成県民会議総会  
記念講演

# 青少年とともに生きる 社会創り






ー 人生の快適ドライブを目指してー

2023/05/22 (月) 15:00-16:00  
熊本県庁地下大会議室

県民会議会長・熊本大学名誉教授  
吉田道雄

## 本日のメニュー



- ・ 毎日が蘇り 
- ・ 人生の快適ドライブ 
- ・ 人生の光と陰 
- ・ コミュニケーションのインフラ創り 
- ・ 小さな親切、大きな感謝 



HP : [http// : ymichio@chu.jp/](http://ymichio@chu.jp/) 味な話の素

## 毎日が蘇り

夜、床に入ってから[自分が寝た瞬間]がわかる人はいませんよね。「あっ、いま寝たぞ」と思うときは、まだ寝ていないのです。わたしは未体験ですが、これは人生で1回だけ、あの世に逝くための体験ツアーだと思っています。もちろん、本番では、その状態が永遠に続いていくことになるわけです。

そうでない場合は、翌朝になるとめでたく「蘇る」ことになります。わたしなんぞは、今日までのところ、何と26000回以上も「毎朝の蘇り」を繰り返してきました。そう考えると、目が覚めるたびにあの世から還ってきたことに感動し、嬉しくなってしまうのです。

朝になれば、蘇った自分自身と[一期一会]のご対面ができるのです。わたしは「何とすばらしいことか」と叫びたくなり、思わず「今日もしっかり生きていきましょう」と自分と声を交わし合います。ありがたや、ありがたや…。

[18/05/11]

Copyright©YOSHIDA, Michio

## 人生の運転

人生は車を「運転」するようなものだと思います。それも、これから先のルートは決まっています。それは「自分」が決めるのです。

カーブの先、トンネルの向こうがどうなっているのかわかりません。それに、車は自分だけが運転しているわけではありません。前に行く車もある一方で後続車もいます。また併走する車もいるし、あっという間に追い抜いていくものもあります。そんなとき、頭にきて競争する人、「お先にどうぞ」と落ち着いている人、いろいろですね。

わたしも駐車場から出ようとする車を入れてあげることがあります。そんな優しさ(?)につけ込んで、どんどん割り込む車が入り込んであきれることもあります。

もちろん対向車にも気をつけないといけません。いずれにしても道路は自分だけのものではありません。道路交通法というルールを守ることが求められます。「見つからなきゃいい」ってものではないのです。飲酒運転などもってのほかです。こうした常識を意識的、あるいは無意識的に無視する人がいます。とんでもないことです。

ともあれ、運転は「前をしっかりと見ておく」ことが基本です。それが安全な運転を保證するのです。しかし、「前だけ」では十分ではありません。「バックミラー」で「後方」もしっかり確かめながら走ることが安全運転に欠かせないのです。ただし、「後ろを見る」のはあくまで「前に進むため」に必要なからです。人生もやはり、「前を向いて進む」ことが大事なのです。

ただし、人生と車の運転には大きな違いがあります。人生には「バックギア」がついていません。いつも「バック」に気を配りながらも、しっかり「前を向いて」快適な運転を続けていきたいものです。このドライブ、自分がどこまで行けるのか、そしていつ終わるのかわかりません。だからこそ、みなさん、楽しく運転して参りましょう!

## 人生の光と陰

「透明人間」には影がありません。しかし、そんな人間は実在しませんから、あらゆるものには光と影があります。それが物質の最小単位の[素粒子]にまで適用できるのかどうかは知りませんが…。

ともあれ、光があるから影ができます。光が当たる方は[陽]で、影の面を[陰]と呼んでいます。中国地方の[山陽]と[山陰]はその具体的な例です。一般的に[陽面]は温かく[陰面]は寒いものです。それは太陽の温度が関係しているからです。その結果として、[陰面]は暗くなります。そして太陽が目に入るほどの位置に立って眺めると、その暗さは際立ちます。

わたしは、長野の善光寺で[漆黒の回廊]を歩いたことがあります。そのときは、「[漆黒]とはこのことか」と感動しました。そこには光がないから[影]もありませんでした。

そもそも、[影]は相対的なものです。太陽の高度が低い朝夕は[長い影]ができます。太陽が[真上]に来れば、[影]はほとんど消えてしまいます。それに、[光源]を移動させれば、「陽」が[陰]になり、[陰]が[陽]に替わります。わたしは、心の[光源]も、それをどこに置くか、それを柔軟に[移動]させることができるかが人生にとって重要なのだと思っています。

[2012/12]



E

Copyright©YOSHIDA, Michio

## コミュニケーションのインフラ創り

今、あなたは日ごろからうまくいっている人と話をしています。ところが、相手はうっかりして、伝えるべきことの80%しか言いえていない場合、あなたはどうしますか。おそらく、「本当はこんなことを言いたいんだろう」と考えながら、不足している20%を補って聴いてあげてでしょう。また、相手の言い間違いにも、「ああ、それって〇〇のことね」と修正しながら聴いてあげそうですね。

これが関係がまずいとどうなるでしょう。相手は120%くらいしっかり話をしてくれています。それにもかかわらず、あなたは気持ちよく話を聴く気持ちになりません。「ああ、またいつもと同じでつまらない話だなあ。あなたの話はいつだって退屈で面白くも何ともないんだよね…」。こんな気分ですから、話の内容も80%、いや50%程度しか受け止めないわけです。しかも、ちょっとでも間違えると心の中で絶叫します。「えーっ、それっておかしいよ。あなたはいつだっていい加減なんだ。もう、やってられないっ…」。

いかがでしょうか。仮に同じことを言っても、相手との関係によって、コミュニケーションそのものの質まで変わってくるのです。

[04/7/29]

Copyright©YOSHIDA, Michio

# 「小さな親切」の力

わたしが薬師寺に行ったとき、吉本興業から派遣されたんかいなと疑いたくなるお坊さんの講話を聴きました。とにかく漫オタッチの楽しい話に笑いが起きるのですが、内容は感動的でした。とくに、「先祖に感謝」「いま生きていることに感謝」ということばが耳に残りました。人と人の対話で、「ありがとう」ほど心を和ませる一言はありません。お礼や感謝の気持ちを伝えるとき、人は純粹になれるですね。それで相手も嬉しくなるとは思いますが、「感謝」は、「ありがとう」と言った本人も気持ちがよくなります。これは「感謝」の不思議な力です。だから、「人のため」ではなく、「自分のため」にも「感謝する」ことが大事だと思います。

この欄で取り上げた「小さな親切運動」を、「小さな親切、大きなお世話」などと言って茶化す人たちがいました。何と寂しい心なのでしょう。そうではなくて、「小さな親切」に「大きな感謝」で応えることで、お互いが気持ちよくなります。これは「挨拶運動」にも繋がります。朝はもちろん、昼間でも夕方や夜でも、そのときに応じた挨拶があります。こちらから率先して挨拶すれば、相手からも反応がくるでしょう。それでまた嬉しくなりますよね。

人生にはこうした基本的な働きかけとそれに対する反応が欠かれません。しかし、いまの日本では、それが当然のことになっていない感じがします。「小さな親切、大きな感謝」運動をはじめましょう。おっと失礼、「小さな親切運動」はいつも健在ですから、「大きな感謝」を付け加えることをご提案します。[03/10/31]

The screenshot shows the homepage of YOSHIDA, Michio. On the left, there is a navigation menu with items like 'Back Numbers', 'Repository', 'Profile', and 'Archive'. A callout box '毎日更新' (Daily Update) points to the 'Repository' section. In the center, there is a featured image of a lily flower and a book cover titled '人間理解のグループ・ダイナミクス' (Understanding of Group Dynamics). A callout box '[動画] とお勧めPickup' (Video and Recommended Pickup) points to a 'You Tube [Group Dynamics Short Lecture]' link. Below that, another callout box 'お勧め「読み物」' (Recommended Reading) points to a 'Safety HP' link. At the bottom left, a callout box 'Mailはここから' (Mail from here) points to a 'mail' button. At the bottom center, there is a copyright notice '©2003 YOSHIDA, Michio'. On the right side of the page, there is a vertical decorative border consisting of a repeating pattern of lily flowers.

## YouTube 動画

**Group Dynamics Short Lectures**

わたしの仕事	▶
groupthink	▶
集団の化学	▶
ボトムアップからの脱却	▶
小集団活動の位置づけ	▶
グループ・ダイナミックスの誕生とわが国における展開	▶
PHSを目指して	▶

**味な話の森 Pickup**

人生の光と陰	▶	安全と歯みがき (1)	▶
人生の運転	▶	安全と歯みがき (2)	▶
行動を変えるために	▶	自己完結集団の落とし穴	▶
対人関係の「掛け算」	▶	虹色の評価	▶
One of the Best choices	▶	仕事の順番	▶
自分を観る、自分の声を聴く	▶	毎日が蘇り	▶
基本の特性	▶	外を見る目、外から見る目	▶
Fail safe & Feel unsafe	▶	組織問題の二大要因	▶
現場の意見を引き出す	▶	「任せろ」と「任せる」の落とし穴	▶
いつでも、どこでも	▶		

## リーダーシップと安全に関する動画 7本

吉田道雄 YouTube 検索

約202件  
検索ツール

**吉田道雄 「リーダーシップ発揮のポイント」 - YouTube**  
[www.youtube.com/watch?v=cvo3XiGbhjM](http://www.youtube.com/watch?v=cvo3XiGbhjM)  

 熊本大学教職員大学院講師陣によるレクチャ映像  
 再生時間: 9:44  
 投稿日: 2019年3月23日

**吉田道雄 責任と誇り - YouTube**  
[www.youtube.com/watch?v=5TCxols09us](http://www.youtube.com/watch?v=5TCxols09us)  

 熊本大学教職員大学院講師陣によるレクチャ映像  
 再生時間: 6:38  
 投稿日: 2019年3月23日

**吉田道雄 「ほめる免許」 - YouTube**  
[www.youtube.com/watch?v=f30-LQu8VZM](http://www.youtube.com/watch?v=f30-LQu8VZM)  

 熊本大学教職員大学院講師陣によるレクチャ映像  
 再生時間: 7:23  
 投稿日: 2019年3月23日

**吉田道雄 「人生を動かす三つの歯車」 - YouTube**  
[www.youtube.com/watch?v=17CukrXQ9po](http://www.youtube.com/watch?v=17CukrXQ9po)  

 熊本大学教職員大学院講師陣によるレクチャ映像  
 再生時間: 7:49  
 投稿日: 2019年3月23日

**吉田道雄 悪魔の法則 - YouTube**  
[www.youtube.com/watch?v=t9dLY\\_aoUPc](http://www.youtube.com/watch?v=t9dLY_aoUPc)  

 熊本大学教職員大学院講師陣によるレクチャ映像  
 再生時間: 10:25  
 投稿日: 2019年3月23日

[吉田道雄 YouTube] で検索

- ・ リーダーシップ発揮のポイント
- ・ 責任と誇り
- ・ ほめる免許
- ・ 人生を動かす三つの歯車
- ・ 悪魔の法則
- ・ コミュニケーションのインフラ創り
- ・ ミニカリスマ

2003	7月号(3)	8月号(4)	9月号(5)	10月号(6)	創刊号(1)	6月号(2)
	11月号(7)	12月号(8)				
2004	新年号(9)	2月号(10)	3月号(11)	4月号(12)	5月	
	7月号(15)	8月号(16)	9月号(17)	10月号(18)	11月	
2005	新年号(21)	2月号(22)	3月号(23)	4月号(24)	5月	
	7月号(27)	8月号(28)	9月号(29)	10月号(30)	11月	
2006	新年号(33)	2月号(34)	3月号(35)	4月号(36)	5月号(37)	6月号(38)
	7月号(39)	8月号(40)	9月号(41)	10月号(42)	11月号(43)	12月号(44)
2007	新年号(45)	2月号(46)	3月号(47)	4月号(48)	5月号(49)	6月号(50)
	7月号(51)	8月号(52)	9月号(53)	10月号(54)	11月号(55)	12月号(56)
2008	新年号(57)	2月号(58)	3月号(59)			
	7月号(63)					
2009	新年号(69)					
	7月号(75)					
2010	新年号(81)					
	7月号(87)					
2011	新年号(93)					
	7月号(99)					
2012	新年号(105)					
	7月号(111)					
2013	新年号(117)					
	7月号(123)					
2014	新年号(129)					
	7月号(135)					
2015	新年号(141)					
	7月号(147)					
2016	新年号(153)					
	7月号(159)					
2017	新年号(165)					
	7月号(171)					
2018	新年号(177)					
	7月号(183)					
2019	新年号(189)					
	7月号(195)					
2020	新年号(201)					
	7月号(207)					
2021	新年号(213)					
	7月号(219)	8月号(220)	9月号(221)	10月号(222)	11月号(223)	12月号(224)
2022	新年号(225)	2月号(226)	3月号(227)	4月号(228)	5月号(229)	6月号(230)
	7月号(231)	8月号(232)	9月号(233)			

Back Numbers:  
2003/04/29からすべて読めます

2003/04/29 No1!

**行動変容のために**  
**適度の危機意識:**「今のままでいい」では行動は変わりようがない。「これではいけない」。人間には適度の危機意識が求められる。バランスが崩れるからこそ、空腹にもなり食事を摂る行動も生まれる。  
**改善できることを信じる:**人間行動は努力によって改善できるという信念が必要だ。「どうせ生まれつき」「もともと性格だから…」。これでは変わるものも変わらない。  
**変わるのは自分のため:**「情けは人のためならず」。人に思いやりある行動を取っておけば、自分にも優しい配慮をしてもらえる。人のために、自己犠牲の精神で自分の行動を変えるなどと思わない方がいい。自分が変わること、人の態度も変わる。その結果として、自分自身も気持ちよくなる。「行動変容は人のためならず…」。  
**使命感:**行動を変えるのは、まさに自分に与えられた使命と考えたいものだ。「リーダーシップの改善はわたしの使命」。そんな気持ちが自分を変える、組織を変える。(03/4/29-1)